

Start & Challenge **生きづらさ抱える女性の交流の場**

人づきあいが苦手だったり、ひきこもりがちなど、生きづらさを抱える20歳以上の女性たちが交流する「お喋り会」が、毎月第3土曜日午後2時～4時に和泉多摩川地区センターで開かれている。

「いろは女子会」(岡安さとみ代表)が「生きづらさを抱える女性の交流会」事業として運営しているもので、参加自由のお喋り会のほか、公園の散歩などの外出を行う「おそとの会」、映画鑑賞や料理を作る「楽しむ会」も2カ月に1回程度行っており、参加者は令和4年6月から延べ約200人を数える。参加者の悩みや環境、立場、年齢は様々だが、同じ悩みを持つ人や、身近な人に話せない内容を話せるため、リピーターも多い。7月の料理会では「一人だと食事味気ないけど、誰かと一緒だとうれしい」という声も上がるなど好評だ。

市民公益活動事業補助金チャレンジ補助金を受けて開催する。開催日程はX(旧Twitter)や、ひきこもり当事者会の活動紹介サイト「ひきプラ」から確認できる。「楽しむ会」「おそとの会」は予約が必要。

問い合わせMiroha_joshikai@yahoo.co.jpいろは女子会。



参加者が作ったウェルカムボード

ヘルマンさんの紙芝居原画展と上演

「ヘルマン・ウォルシュケさんの足跡をたどる会」(飯田吉明会長)がヘルマンさんの業績と生涯を紹介した2種の紙芝居を製作、5日(日)～8日(日)の午前10時～午後5時に泉の森会館で原画展を催す。また、狛江フェスティバル会場の泉龍寺で7日(日)は「ヘルマンさんのおはなし」、8日(日)は「ヘルマンさんとソーセージ」の紙芝居を上演する。時間はいずれも午後4時15分から。



(左から)田中さん、飯田会長、石谷さん

同会は平成25年に発足。第一次世界大戦でドイツ人捕虜として来日、日本の食肉加工技術の向上に貢献、狛江で食肉加工工場を営み、泉龍寺に墓があるヘルマンさんの業績を調べる活動を行ってきた。ヘルマンさんについて市民に知ってもらおうと紙芝居の製作を企画、幼児から小学校低学年向けの「ヘルマンさんとソーセージ」を調布市在住で元・狛江第五小学校校長の石谷清隆さん、小学校高学年から大人向けの「ヘルマンさんのおはなし」を八王子市在住の田中尚子さんが描いた。同会では、狛江市市民公益活動事業チャレンジ補助金で紙芝居を印刷するとともに、原画展の開催と上演を行う。参加無料。問い合わせ☎3489-0222飯田さん。

Shop & Service Guide ...38

いらっしゃいませ

トキ

(株)トキは出版、企画、編集、デザイン、制作に加え、ドローンに関する幅広い事業を展開。ドローン事業では、撮影や測量、販売などを行っているほか、「悩み相談」や講習会など愛好者や操縦者の拡大につながる初心者向けのコンテンツに力を注いでいる。

代表取締役の相馬菜穂さん(54)は狛江生まれで地元の小・中学校を経て都立高等学校を卒業後、銀行、企画会社、イベント会社などに勤務した後、フリーランスのコピーライター兼編集者として活動した。父の玉野登喜男さん(故人)が昭和55年に設立した(株)トキに入社、経済誌などメディアに掲載する国内外の企業や自治体などの記事広告、パンフレットやチラシなどの印刷物、WEBデザインなど広告関連を中心に手



DRONEHOLIC cafeで(左から)相馬仁さんと菜穂さん

幅広い広告制作を手がけ44年
ドローン事業で市と災害時協定

☎3489-4343 本社=中和泉2-11-8
DRONEHOLIC cafe.=岩戸北4-17-25-2F
不定休 同社ホームページ→



がけ、平成25年に父の死去にともない代表取締役役に就任した。

ドローン事業は、夫で取締役の相馬仁さん(61)が担当。日本唯一のプロディスクダンサー「JIN」として活躍する仁さんは、ダンススタジオとソウルバーを運営し、テレビやラジオへの出演、イベントや企画の運営など積極的に活動し、狛江でも多くの人に知られている。

仁さんがドローンと出会ったのは4年前。コロナ禍で仕事が減るなか、そのおもしろさと可能性に目覚めた。自動車販売会社の支店長を勤めた経験と、車やオートバイが趣味でメカに強いこともあり、マルチコプターからヘリコプター、固定翼など機種ごとに異なる操作技術を習得。JUIDA無人航空機安全運航管理者、同認定スクール講師、アマチュア無線技士などの免許も取得し、ドローン関連の仕事を増やしてきた。現在、約300機の機体を保有し、それぞれの操作方法や上達のコツなどを指導できるよう努めているという。

日本ではドローンの規制が厳しく、機体購入後は様々な手続きが必要で、そうした煩雑な手続きについてアドバイスを求められることが増えたため、愛好者の交流スペース「DRONEHOLIC cafe」をオープン。希望に合ったドローンの選定から販売、カスタマイズ、メンテナンス、操縦体験会や飛行会なども開いている。また、同社は、狛江市と災害時等における無人航空機を活用した協力体制に関する協定を令和4年に締結。今年6月の総合水防訓練では、ドローンで上空から撮影した訓練風景を大型スクリーンに投影して、来場者から好評だった。

仁さんは「首都圏では自由に飛ばせる場所が少ないので、いずれは狛江をドローンの聖地にしたいです」と話している。

旬会ライブに子どもら60人を招待

狛江市文化講演推進会(中野潔会長)が、10月30日(日)午後6時30分からエコルマホールで催される文化講演会「夏井いつき旬会ライブin狛江」(狛江市主催)に市内在住の小・中学生とその保護者、市内在住・在学の高校生合わせて60人を招待する。



夏井いつきさん ©sakura goto

同会は、文化講演会を通して狛江らしい文化を育み、魅力ある文化を発信するまちを目指して、街づくりや国際交流などに関わる人たちが、令和4年に設立。市民手作りの講演会を毎年開くことを目途として、昨年4月に棋士の羽生善治さんを招いて第1回の文化講演会を催した。

狛江市名誉市民で昨年8月に亡くなった絵手紙創始者小池邦夫さんの出身地である松山市が同年に催したイベントを狛江市が共催した。今年は狛江市の主催、松山市の共催で、松山市の初代俳都松山大使の俳人夏井いつきさんを招いて旬会ライブを開くことになった。狛江市文化講演推進会では、趣旨に賛同する市内の企業・団体の支援を受けて、席の一部を買い取り、子どもたちを招待する。招待希望は9月5日(日)～16日(日)で受け付ける。詳細は二次元コードから。応募多数の場合は抽選。

問い合わせ☎090-1438-4895 EメールMinfo@komaeculture.com 狛江市文化講演推進会事務局 水田さん。

スポット

外国人が盆踊りやそうめん
国際交流で日本の夏味わう

狛江市国際交流協会が8月4日(日)に「日本の夏を知ろう&浴衣で盆踊り体験」を催し、外国人や会員など約60人が盆踊りなどで市民との交流や日本の夏を楽しんだ。



盆踊りを楽しむ外国人参加者

参加した外国人は中央公民館で浴衣を着付けてもらった後、「狛江音頭」「東京音頭」などの盆踊りを練習、市役所前市民ひろばで開催されたいずみ会の盆踊りの輪に入って、なごやかに踊りを楽しんでいた。参加者は中央公民館で用

意されたそうめんを味わいながら、日本独特の夏の風情を味わっていた。

工作や実験などが人気
子ども・中高生スペース

「夏休み子ども・中高生スペース」

が8月13日(日)から16日(木)まで中央公民館で開かれ、期間中は多くの子どもと保護者が訪れた。

夏休みに学びと体験をと、同館が平成30年度から実施している。期間中は子どもを対象に子ども食堂などが昼食を提供、整理券が連日15分ほどでなくなるほどだった。

万華鏡とうちわ、ボードゲーム体験、化学実験などのイベントがあり、いずれも応募多数で抽選になるほど人気を集めた。小学生対象の「もえるって何だろう? 線香花火をつくろう」は講師の科学読み物研究会会員の坂口美佳さんが鉄や銅などの金属を燃やす実

験を行った後、子どもたちが鉄粉を使って線香花火作りを体験した。15日(日)にはペットボトルで作った水鉄砲とひしゃくを使って市役所前市民ひろばで打ち水を行った。



科学実験の講座

